

令和4年3月25日

保護者の皆様

県立湘南台高等学校

校長 伊藤 秀樹

「生徒による授業評価」アンケート結果について（お知らせ）

早春の候、皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。また、日ごろより本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本校は、「主体的に学ぶ意欲や探究心を高めるとともに、確かな学力を向上させる。」ことを学校目標として、日々の教育活動に取り組んでいます。具体的な手立てとして、生徒の興味と関心を高める授業、生徒の視点に立ったわかる授業を実践し、課題解決型・体験型学習を取り入れ、生徒が主体的に考えたり、表現したりする機会のある授業づくりに努め、授業改善を行ってきました。

つきましては、「生徒による授業評価」アンケートを令和3年7月と12月に実施し、その回答を集計し、各教科で結果を比較検討しましたのでご報告いたします。

質問項目

1. 毎時間の授業や単元（内容のまとめ）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある
2. 単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある
3. 単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある
4. 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた
5. 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた
6. 授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた
7. 授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた
8. 授業での指示や説明は分かりやすい
9. 分散登校中のオンライン等での授業は適切であった（後期のみ）
10. 自由記述

これらの質問項目について「4. かなり当てはまる 3. ほぼ当てはまる 2. あまり当てはまらない

1. 全く当てはまらない」の4段階で評価を行いました。

評価結果の比較検討内容（教科別）

| | |
|------|---|
| 国語 | 全ての項目で前期の数値を後期が上回っていた。オンライン授業の実施により、授業内で取り組む内容の整備や、教員側の指示内容、ワークシートの具体化といった授業のUD化に向けすべての生徒にとって「わかる授業」の実践を行ったことが理由であると考えられる。質問5「他者の意見を知ることにより新たな考え方を知り、自らの考えを広げ深めることができた」という項目については、ICT機器により、生徒相互の情報共有や発表方法の工夫が実施できた点があげられる。質問4については、生徒が自らの学びを実感できるような働きかけを模索していきたい。 |
| 数学 | 前期と比較して6項目で改善が見られた。前期に比べ学習内容が難しくなったことが予想されるが、生徒同士の話し合いなど授業中に生徒の考えを深める機会をつくったことや、一人ひとりへ細かな個別対応をしたことが改善できた理由としてあげられる。また、項目8で評価が低くなってしまったのは、オンライン授業での指示や説明が生徒に上手く伝えられなかったことが原因であると考えられるため、今後は教科内でICTの活用なども含め積極的に共有・検討し改善できるように努めたい。 |
| 社会 | 前期8項目のうち、6項目で改善が見られた。一方、特に下がっている項目はない。しかし、教科の特性上、知識として教えなければならない内容が多く、限られた時間の中で消化せざるを得ない事情があり、今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、積極的な協働学習ができなかったこと（分散登校や短縮授業も含む）により、他者の考えを知ったり自らが考える機会をつくるのが困難であった。今後は、ICTの活用等により、生徒による協働、発表などの機会を増やしていく授業実践が課題だと考えている。 |
| 理科 | 前期と比較するとすべての項目で改善が見られた。しかし、上昇はしたものの「自らの考えを広げ深める」とある項目2と項目5の2項目の評価が低くなった。これは前後期を通して、感染症対策により、他者と考えを共有する機会が少なくなっていることが原因と考えられる。今後、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学習授業改善に向けて、状況に応じ、グループワークなどを通して基礎的な知識をお互いに学びあえる指導や、タブレットを使用して他者と考えを共有できる活動を模索していく。 |
| 英語 | すべての項目において、前期と後期の変化は僅かだった。評価1が微増した質問6は、来年度以降の英語科の課題である。授業で学んだことをもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考える機会を意識して取り入れていきたい。質問1の評価1に減少が見られる点は、一人一人が学習のねらいを生徒に示すよう意識した授業を行ってきた結果であると考えられる。質問5の評価3、4に微増が見られ、1学期に比べ、コロナ禍が落ち着きペアワークやグループワークを取り入れる授業を行うことができた結果だと思われる。 |
| 保健体育 | 評価3、4の合計の割合について、保健においては全ての項目で80%を上回り、体育においては全ての項目で85%を上回った。また、保健の質問8において0.1%の微減が見られたが、その他は、保健・体育ともに、前期を上回る結果となった。概ね、現状に問題点は少ないとみられる。相対的に保健の質問4の評価が低いのが、これは他教科と比べて問題を解いたり、小テストを行ったりすることが少なく、知識の定着を実感する機会が少ないのだろうと推測できる。また、質問9においては、保健・体育ともに評価3、4の合計が90%を上回っており、概ね良好であった。 |

| | |
|----|---|
| 家庭 | 4と8を除く項目で前期より評価がアップした。ICT活用の効果が徐々に表れたものだと考えている。4の項目については、再び新型コロナの影響を受け、グループワークの機会が失われ、「1・2」の評価の割合が増えたことによるものと考えられる。次年度以降もさらに新型コロナの状況下での授業の工夫が必要だと考えている。生徒一人ひとりに気を配ったきめ細かな指導となるよう、さらにICTの活用方法の改善や取り扱う教材、授業進度や授業内容の工夫や精選などを引き続き検討していきたい。 |
| 芸術 | 前期と比較すると全ての項目で前期の数値を上回った。感染症対策により活動内容が制限された中でも基礎・基本の学習を踏まえた教材の選定や授業展開を工夫して行ったグループワーク、創作活動が各々の技能の向上と達成感や充実感の獲得につながったためと考えられる。今後もICTを適切に活用しながらきめ細かい指導を心掛け、授業の振り返りや相互の鑑賞活動から生徒の感性がより向上し、主体的・対話的な学びの深化が図れるよう努めていきたい。 |
| 情報 | すべての項目において後期に改善がみられた。特に項目2と5については前期の実習内容が個人での作成だったのに対し、後期では作成自体は個人で行ったがグループを作成して分担を決め、全体で大きな1つのものを作成するようにしたことが評価の改善につながったと考えられる。しかし、全体を通してやや低めの評価であるので、生徒が主体的に取り組み、他者の意見を取り入れる機会を多く設けることができるような授業展開としていけるよう努めていきたい。 |
| 総合 | 前期と比較するとほとんどの項目で改善が見られた。各教科にて習得した知識や技能を活用し、課題の解決に必要な情報を文献やインターネットを利用して、まとめ・表現することができるようになったと考えられる。3年生のクラス内発表会や本年度初めて実施した3年生の全校生への発表会によって他者の考えを知ることができ自らの考えを広げ深めることができるようになったと考えられる。しかし、自分自身で考えをまとめたり解決方法を考えるとといった問題解決に向けた、自主性、積極性をどのように伸ばすかが今後の課題である。 |

この検討結果を踏まえ、今後も生徒の学習意欲の喚起・課題解決や既習内容活用の能力向上に一層努め、研修会をはじめとする様々な活動を通して、授業を改善して参りたいと考えています。より良い授業を目指して学校全体で取り組んで参りますので、ご意見やご感想等がございましたら、学校にお寄せください。

問合せ先
副校長 大江
電話番号 0466-45-6623

【参考】各教科の質問項目1～8への回答の平均値を示しています。

例の場合、中心が2.0、そこから外側に向かって各線が2.5、3.0、3.5を示します。

